

○提案内容

(1) 実現したい都市のビジョン	
<p>(和束町の紹介) 京都府南部に位置する和束町は人口約4,000人(高齢化率約45%)の小さな町だが、京都府全体の46%と府内一の茶生産量をほこり、就労人口の約25%は一次産業であるなど、茶業のまちとなっている。 町の面積の75%が山林と元々平地が少なかったことから、山の斜面を開墾していった歴史があり、山腹まで広がる「山なり茶園」が特徴となっている。現在、東京ドーム120個分(約600ha)の茶園を約300戸の農家が経営している。 近年では町中に広がる茶畑景観が京都府景観資産や日本遺産に登録されるなど、対外的に評価を受けたこともあり、茶畑景観を目当てにした観光客も急増しており、町としても「茶源郷 和束」としてPRしているところ。</p> <p>(都市のビジョン) ①高齢化が進む中、町民が安心して暮らせる環境づくり ICT技術を活用してより快適で安心な生活を送ることができる ②交流人口の増大による町の活性化 <外の対策> 「茶源郷」という言葉がぴったりな、全国ここにしかない景観を発信し、京都の新たな絶景スポットとして誘客促進を図る <内の対策> 「道が狭い、駐車場がない」という課題を解決するためパークアンドライド観光を進める ③主産業の茶業を守る 高齢化や後継者不足が大きな課題である中、先端技術も活用しながら近代化を図り、持続可能な茶業をつくりあげる。</p>	
(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題	
※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>①地域住民の足の確保(公共交通空白地有償運送) ・和束町の公共交通は1時間に1本程度、幹線道路を通る1ルートのみ路線バスだけで、バス停までの足や運転できなくなった高齢者等の移動手段が課題 ・急増している観光客が大型バスや自家用車を置いて、道が狭い町内を巡る新しい交通手段が必要であり、現在、グリーンスローモビリティ(ゴルフカート)を29年度に1台導入済み。31年度に増台予定。土日祝日は運転手をおいての無償運行を実施中(平日は観光案内所職員が必要に応じて運行)。 ・住民の足の確保と導入したゴルフカートの有償化のため、公共交通空白地有償運送を実施すべく、調整中。 ・公共交通空白地有償運送の運行方式を「不定期定路線運行」(予約があった際に運行させる方式)にする予定だが、町民にわかりやすく、町としても把握しやすい運行予約システムの構築が課題</p> <p>②和束町の認知度向上と訪れた観光客等への観光スポットへの案内 <外の対策> ・茶畑景観は、京都府景観資産第一号に認定され、今後の京都の新たな観光スポットとしての潜在性があるが、認知度向上が課題 <内の対策> ・和束町では茶畑景観を売りにした観光振興に取り組んでおり、観光案内所や農家の直売所が観光客の拠点になっているが、「有名な(絶景の)茶畑景観はどこか」という質問が一番多くなっている。標識やパンフレットなどで対応しているが、はじめて訪れる方にとってはわかりにくく、道に迷う方が多いことが課題 ・外国人の観光客も急増しており、スマートフォンを使った決済や会話も課題</p> <p>③農作業の負担軽減 ・60歳以上が57%と農家の高齢化が進む中、山の斜面での農作業は困難であり、省力化や作業効率アップが課題</p>	<p>①ア、オ、コ</p> <p>②ア、オ</p> <p>③キ</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

①地域住民の足の確保(公共交通空白地有償運送)

・ネットやスマートフォンで見ることができるバスロケーションシステム及び運行予約システムの構築

②和東町の認知度向上と訪れた観光客等へ観光スポットへの案内

<外の対策>

・情報通信技術を活用して、ドローンの映像を、京都市内等の離れた場所にリアルタイム映像を送信する

<内の対策>

・GPS技術等を活用し、タブレットの貸し出しや、開発したスマートフォンのアプリのダウンロードにより、道案内ができるシステム

・外国人の観光客向けのスマートフォンを使った電子決済や地域ポイントシステム、自動翻訳システム

・GPSや自動運転技術、センサー技術等を活用し、ゴルフカートの無人走行

③農作業の負担軽減

・ドローンを活用した農薬散布

→昨年度勉強会を開催しましたが、空中散布できるお茶用の農薬がない(許認可を受けていない)ため、現時点での実施は無理との結論でした。

・ドローンを活用した茶園の状況調査(茶葉の生育、日照、気温等)

・センサー技術等を使った刈り取り機の改良や自動化(手摘みと同じ「一芯二葉」の位置で刈り取る等)

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

①地域住民の足の確保(公共交通空白地有償運送)

・先端技術を活用してバスロケーションや運行予約システムを導入できれば、「不定期路線」運行ではなく、デマンド輸送が可能になり、より住民の利便性が向上する。

・デマンド輸送と貨客混積を組み合わせれば集配の効率化にもつながる可能性もある。

・ゴルフカートは観光客が道が狭い町内を巡る足としても利用できる。

②和東町の認知度向上と訪れた観光客等への観光スポットへの案内

<外の対策>

・ドローンの映像は美しく、空中からの眺望は、見渡す限りの茶畑をわかりやすく伝える方法であり、「行ってみたい」感覚を刺激し集客効果が期待できる

<内の対策>

・「非日常体験」が観光の醍醐味であり、公道を走れるゴルフカートでも十分魅力だと考えるが、無人走行が可能になればさらに注目度が向上する。さらに、運転手の人件費等維持費の軽減やゴルフカートの増台も可能になる。

・GPSにより和東町にはじめて訪れる方にとってもわかりやすい案内ツールを提供できれば、観光客のストレス軽減になり満足度向上にもつながる。

・スマートフォンを使った電子決済やポイントシステム、自動翻訳により外国人観光客への利便性の向上を図れる。

③農作業の負担軽減

・和東町の山なり茶園では搭載型の刈り取り機が走行できないため、2人が畝の両側に立ち、機械を手で持って刈り取っている。また肥料や農薬も定期的に散布しており、和東町の茶作業は非常に重労働となっている。最先端技術も活用して機械化が進めば、農作業の負担は大幅に軽減され、高齢化、後継者不足の課題解決にもつながる。

・ドローンは農薬散布のほか、鳥獣害対策(和東町では特にサル)にも活用できないか、検討の余地あり。

(5) その他

和東町は予算規模も小さく、職員数も限られていますので、効果や実現可能性が高い事業にしぼって取り組んでいく必要があると思っています。

まずは、今ある課題を解決するための検討会やプラットフォームづくりを31年度に取りかかることができればと考えております。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
地域力推進課	課長 犬石剛史 主任 山田真也	0774-78-3002	chiikiryoku@town.wazuka.lg.jp